

大会に寄せられた メッセージ

2012年9月5日～6日

全学連第73回定期全国大会

◆星野文昭

高崎経済大学出身

71年11・14 沖縄返還協定批准阻止闘争戦士

「殺人罪でっち上げ」で無期懲役

徳島刑務所在監、獄中38年

この間連続して数万、数十万の決起をしている労働者人民のさらに大きな団結の力で原発をなくし、外注化をストップし、非正規、消費税をなくし、資本、権力に代って労働者人民が人間らしく生きられる社会を実現する巨大な決起を勝ちとるために、学生が先頭に立って職場、学園、地域、全国、全世界に巨大な団結、闘いを絶対につくりだす。その目標と決意を今大会で強固に固めつつあると思います。

今日の帝国主義段階の資本主義が大恐慌と戦争と失業を不可避とし、大量殺戮と人類そのものの滅亡を結果する核、核戦争を生起するに至って、この核物質を生成するための原発は広島型原発の1日3発分年間1000発分の放射性物質を製成し、原発労働者、周辺人民を被曝させ生命を脅かすことなしに一日も稼働できず、今回の福一の事故によって原爆百数十発分の放射能を放出し、数十発分を福島を中心に陸地を汚染し、数百万人規模の労働者人民を外部、内部被曝によって生命を脅かし工、農、漁業はじめ生きるための生業を奪い、生活も生命も根こそぎ奪っています。

核政策を進め自国と全世界の労働者人民に百発以上の原爆を爆発させ、福島を中心にその全てを奪ったに等しい帝国主義、原子力、電力資本、全資本とその政府はその責任を全く取らず、被曝を隠し、被曝を隠し、犠牲を放置しさらにさらにそれを再拡大する再稼働と原発輸出を強行しています。こんなことは何人も許されることではないのです。

このことへの根底的怒りは、7.16はじめ毎週官邸・国会・全国で数万人、数十万人の決起を作り出しています。

そしてこの怒りの決起は、立ち上がることで敵は原発はもとより今日の命よりも金儲けの新自由主義、それを進める資本と政府そのものであり、労働者人民がこれに1つに立ち上がり、団結し闘えば、原発・新自由主義を打ち砕き、世の中を変えられるという確信を一気に拡大して生み出しています。

これは、アラブの春、オキュパイ運動、ギリシャ、EUのゼネスト、1%への99%の闘いと同じ1つの敵と闘い倒す1つの闘いです。この闘いを職場、学園、地域、全国、全世界の労働者人民の団結した闘いとして根付かせ、100万人決起を作り出し、命より金儲けの

社会を変え、人間的な真の共同社会、誰もが思いやり助け合い人間らしく生きられる社会を実現しましょう。

資本主義は労働者を労働力商品化し、生産手段を資本として独占所有する資本がその生産物を自らのものとし、労働力再生産の必要分を賃金として支払い、その他を利潤として搾取し蓄積し、一方で資本一握りがトコトン肥え太り、一方でこの労働者を収奪の対象の人民99%を奴隷化、貧困化させ、人間的な労働、生活、生命をトコトン破壊します。そして過剰資本を生み、大恐慌を引き起こし、大失業と戦争を強い、人間生活、社会生活を根本から破壊します。

大恐慌に対する唯一の恐慌対策、資本救済のための減税と財政投入は、財政危機をさらに引き起こしつつ、さらに過剰資本状態＝大恐慌を泥沼化し、その中でなお延命するために資本、国家間の争闘をどこまでも死闘化し一方で、国鉄分割民営化を歴史的突破口に労働者の団結、抵抗を破壊しつつ、競って最大の利潤を得るために、リストラ、解雇、不安定雇用・非正規職化・賃下げ・強労働・安全切り捨てを進め一方で市場・資源・勢力圏をめぐる争闘・死闘を激化させるそうした新自由主義・資本主義の破壊を受け突進しています。また、資本救済の減税と財政投入が引き起こしている泥沼的な財政危機、国家危機を乗り切るために「大増税と公的部門の民営化・外注化・非正規化と社会保障解体」をEU緊急策、橋下反革命に典型的な形で進め、これによってまた全産別・全社会的に外注化・非正規化を進め、教育・医療・福祉・交通など社会生活そのものを破壊することを絶望的に進めています。

このようにして過剰化し、あふれている資本・金融資本は国家も社会も一層丸ごと支配し、利子・配当などを含めた利潤をさらに無慈悲に第一として、こうした命よりも金儲けの新自由主義によって人間生活・社会生活そのものを根本から破壊するに至っています。

最早、資本とその勢力がこの社会を成り立たせることができず、むしろ社会を成り立たせる責任を放棄し、1%の救済・延命、利潤のために99%に首切り自由、賃下げ自由、生活・安全破壊自由の労働、生活・生命破壊を強制するものになっており、彼らと彼らの社会は、人間生活・人間社会の敵対物に完全に転化しています。

このことへの怒りの決起が、ギリシアはじめ全世界で、日本で根底的に、継続的で非妥協的に発展しています。

原発へ、国鉄一外注化・非正規化へ、資本減税・消費増税へ、沖縄オスプレイ、三里塚空港へ、星野無期・弾圧へ、戦争・改憲へ、怒りの決起は、より根底的で継続的で非妥協的に勝利を勝ちとるまで発展します。国際連帯で領土をめぐる対立・戦争・排外主

義を粉碎しよう。

立ち上がることで、一つの敵を見定め、生産・社会を成り立たせている労働者と人民の団結した力でこの現実を変えることができることを確信し、職場・学園・地域、全国・全世界で全ての闘いを自らと仲間の闘いとして闘うことによって、思いやり、助け合い、力を合わせて未来を開く団結した力を養い、磨き、この団結した力によって資本・権力を倒し、真の人間的共同社会を実現しよう。

労組・自治会・党・ソビエトを一体に形成し、その力で資本・権力を打倒し、全てを奪い返し、社会の主人公としての労働者の力を、労働者人民の力を解き放ち、誰もが喜びをもって働き、人間らしく生きられる社会を実現しよう。

人間は本来、その(個々の)生命活動そのものが団結に全ての人間の生命活動とつながり一体に限りなく豊かになり、その人間的共同性のなかに生きることの深い喜びと無限の豊かさを感じる存在です。

しかし階級社会は、人間の生命活動が支配階級の富と支配を強め、今日のように資本主義社会において、人間・労働者人民の労働・生活・生命をトコトン破壊するものになっています。

だから、この生産と社会を成り立たせている労働者が団結し立ちあがることでこの現実を変え、本来のあり方を取り戻していく、その力・能力をどこまでも信頼して、日々の労働と生活と闘いを通して、この力・能力を甦らせ、資本・権力を倒し、全てを奪い返し、誰もが持てるものの全てを解き放ち、喜びをもって働き生き、人間らしく生きられる社会を実現しよう。

70年、日本帝国主義は、戦後アメリカ的統一を担ってきた米帝が歴史的に没落し始める中で、敗戦帝国主義から侵略帝国主義に飛躍しようとしていました。沖縄72年返還によって沖縄基地を強化しベトナムーアジア侵略戦争を担い日米安保で自前で侵略戦争のできる帝国主義に飛躍する、またその下で労働者人民への支配と搾取を合理化などで強めていく。こうしたことへスターリン主義・社民・体制内派の制動・クビキを打ち破って青年労働者・学生を先頭に立ちあがり、ついにロシア革命以来スターリン主義によって歪曲・抑圧されてきた労働者の解放＝人間解放闘争が社会を変革する力をもったものとして登場を勝ちとり、労働組合と党とソビエトを一体的に本格的につくり、アジア・世界の労働者人民の団結した力で革命を実現していく展望を開いたのが70年闘争でした。

そしてこれを国家権力が何が何でも圧殺しようとしてきたのが、破防法、カクマル反革命、星野無期でした。

私たちは、これとの闘いをその70年闘争の地平をさらに発展していくものとして、多くの困難・試練をのりこえることを糧に闘い勝利

していくことで、動労千葉労働運動・階級的労働運動、それと一体の星野、沖縄、三里塚、諸闘争、そして法大・学生運動を、命より金儲けの新自由主義・資本主義・帝国主義そのものを打倒し、人間本来の社会、人間的共同性に満ち、誰もが喜びをもって働き人間らしく生きられる社会を手にする展望を開いています。

この闘いの力で、この闘いの未来をかけて、星野闘争、星野＝暁子闘争、共同闘争としての真価を発揮して、再審・釈放・全証拠開示運動の発展で、星野無期を打ち砕き、再審・釈放を一日も早く勝ちとろう。

法大暴処法無罪のバトンを受け取りました。共に闘おう。

一つに団結し闘うことを、根底的欲求とし喜びとしてたたかい勝利しよう。

◆国鉄水戸動力車労働組合

反原発・学生自治会復権を目指す全国学生のみなさん。日々の奮闘に心からの敬意を表します。

JR東日本検修・構内業務外注化反対と被曝労働阻止の闘いは連日激しく闘いぬかれています。水郡線常陸大子営業所での被曝労働阻止を掲げた約1か月にわたる時限ストライキ闘争は、原発事故と放射能汚染に一切責任を取らない資本に対して、労働者が現場から実力で闘うことの持つすさまじい威力を叩きつけました。そして、闘争の中で現場労働者の団結がより一層強く打ち固められ、闘いの渦中において、昨年の照沼靖功君に続いて青年運転士の羽部圭介君を新たに組合の仲間として迎えることができました。御用労組・JR東労組の抑圧と支配が、青年の怒りによって打ち崩されようとしています。

外注化をめぐる闘争は、国鉄分割・民営化以来の25年に渡る闘いの決着点として、同時に、非正規職化そのものを根底から打ち破る、労働者階級の未来を賭けた闘いとしてあります。外注化計画とはそもそもデタラメな机上の空論でしかありません。JR資本が鉄道の安全を切り捨て、ただひたすら金儲けを追及していくあり方です。違法性と矛盾に満ちた外注化計画は、JR東労組・国労本部の会社当局との結託体制によってかろうじて成り立っているにすぎません。現場労働者、とりわけ青年労働者の人生を賭けた決起が始まれば、こんな計画はたちまちのうちに破綻に追い込むことができます。すべての組合員が、心一つにして新たな仲間の獲得に向けて真剣勝負で青年労働者と向き合い、闘いを呼びかけ続けています。労働者を心底信頼し、決してあきらめることなく闘い続ける限

り、私たちが敗れ去ることはありません。

国鉄分割民営化、そして2010年の4・9政治和解に対し、「新自由主義と対決する労働運動の復権」を掲げて開始された国鉄闘争全国運動の持つ力は、戦後労働運動の在り方そのものを変革する闘いとして、大恐慌と昨年3・11大震災・原発事故の情勢下においていよいよその本領を發揮しようとしています。「絶対反対」の闘いを貫く者のみが、次の時代を切り拓く挑戦権を手にすることができる時代が来ています。自分たちの力、労働者階級が本来持つ力に徹底的に依拠した闘いこそが絶対反対の闘いの真骨頂です。原発を廃炉にし、放射能から人々を守り、福島を取り戻す闘いとは、誰もが目を背けることも身をそらすこともできない壮大な課題です。この闘いを人間の持つ共同性において断固として引き受け闘っていくことこそ、全労働者階級に課せられた使命としてあります。労働組合こそ、その最先頭で闘いぬく労働者の団結体です。動労水戸は、労働者階級の未来を賭けてこの闘いに断固突き進んでいく決意です。

2日間の昼夜を通した白熱した議論を勝ち取り、全国学生の団結を打ち固め、大会が大きな成果を収められることを祈念して、私たちの挨拶に代えさせていただきます。共に闘いましょう！

◆一般合同労働組合 東京西部ユニオン 鈴木コンクリート工業分会

全学連第73回定期全国大会の開催を心よりお祝い申し上げます。また、日頃のご支援・ご協力と連帯に厚く御礼申し上げます。

野田政権は原発再稼働の強行や消費増税とともに、沖縄新基地建設とオスプレイ配備、道州制、公務員労働者への激しい賃下げ、すべての労働者への非正規職化、労働組合解体攻撃を一気に強めてきています。

しかし、7・16反原発集会では過去最大の17万人を結集しました。そして、毎週20万人近い人々が首相官邸や国会議事堂を取り巻き、腹の底から怒りの声を上げています。国家や資本家の資本主義社会での新自由主義政策がもたらした競争原理が膨大な民営化・規制緩和、非正規化、失業と貧困を作り出し、原発事故から暴き出された原子力の平和利用が全くのウソであることが露呈しました。労働者や青年・学生が生きていけない社会になり「ふざけるな！もう騙されないぞ！」と言う怒りが充満し爆発が開始しています。この怒りを職場やキャンパス・地域の闘いと結合させ、その団結した力で野田政権をぶっ飛ばし、原発を止めていきましょう。

我々、鈴木コンクリート工業分会は、昨年からの組合破壊と団結破壊の解雇と処分攻撃に屈することなく、元気に堂々と職場、地域で解雇撤回・非正規職撤廃を掲げ、団結を軸とし闘い続けています。職場の地域から地区労の復権を掲げ、産別と労働組合の垣根を越えて闘う労働組合の支援と連帯を呼びかけ、7・15鈴コン闘争支援・連帯共闘会議を結成しました。闘う労働者の団結した労働組合は不可能を可能にすることができます。

今回の我々に向けられた不当解雇は単に、鈴木コンクリート工業分会に対するものではないと認識しています。労働者が団結し行動することは、憲法でも定められている当たり前の権利です。その当たり前の権利を主張したことが、解雇になるんだというのが企業の認識です。また生コン労働者や非正規労働者、全ての労働者民衆へかけられた団結破壊攻撃等、この間の関西生コン支部弾圧や動労千葉に対する司法の判断も、組合が団体で行動する事は労働組合の活動の範囲を超えていると判断され、国家的不当労働行為があったとしながら解雇撤回は認めないなど、労働組合の存在そのものを否定するような動きが横行しています。こうした事からも、鈴木コンクリート工業分会に対する不当解雇は全ての闘う労働組合に対する攻撃だと考えています。全ての労働者が団結し、職場から労働組合を甦らせていく闘いを作り上げていきましょう。労働者が主人公となる社会を作っていきましょう。そして、本定期大会の成功を心から祈念しております。鈴木コンクリート工業分会は、外注化阻止・解雇撤回、非正規職撤廃を掲げ完全勝利まで共に闘い抜くことを約束して、連帯のメッセージとします。

◆沖縄北部合同労組・うるまユニオン 執行委員長 富田 晋

全国の闘う学生の仲間の皆さんお疲れ様です。

反原発・反戦闘争と学園・職場での闘いを今こそ一体的に勝ち取り、溢れる学生・労働者の怒りを爆発させよう！皆さんと共に闘うことを誓い、沖縄からメッセージを送ります！

私達、沖縄で闘う労働者は心から皆さんに連帯を示したい！

日米帝国主義は「3・11」を契機に10年かかる政策を一年で押し切ると決めました。沖縄への永久基地固定化を狙い、オスプレイ配備強行を通して激しい攻撃を開始しています。魚釣島(タオユイタイ)の領土問題を突破口として、高江へのヘリパッド建設の強行、基地労働者・沖縄労働者階級への権利の剥奪の攻撃はシーバト

ル・米軍再編の要である辺野古新基地建設強行に向けた新自由主義攻撃・学生自治会と労組壊滅攻撃です。

迎え撃つ我々は、各職場・学園から新自由主義政策と対決することを通して東北大・京大・法大を軸として新自由主義政策と真っ向から闘う学生・動労千葉・外注化阻止決戦を一体的に闘い、基地労働者を中心として階級的団結の復権を勝ち取る指導部建設という新たな段階へと入りました。9・9オスプレイ配備阻止・県民大会はこれまでの闘いの一つの集約点と言える闘いです。

私の職場からも何人もの労働者が県民大会へ決起する決意を固めています。その上で沖縄の労働者はより根底的な闘いを要求しています。

私の職場は外注化され、9割が非正規職であり、労働者は毎月のように退職をしています。組合に結集したくとも生活の為に次の職場に行かなければならない実態があります。県民大会に決起したくとも出来ない労働者がいるのです。

私の組合の組合員は県民大会の呼びかけに対して「県民大会は重要だ。オスプレイが危険だとか米軍犯罪がダメだと反対するのも大事だが、それだけでは本質的課題は突破できない。私達が求めていることは資本家から生きる糧を奪い返し、労働者が生きられる社会建設だ。その中に基地撤去の問題があるのではないか」と話しました。組合員は沖縄の労働者が求めていることは労働者が生きられる社会建設・共産主義建設であると共にその為の指導部が必要であることを訴えています。

職場生産点・学園での闘いにおいて県民大会を組織出来る指導部に我々がならない限り問題は解決しません！

学生と労働者に求められている課題は全く同じです。帝国主義の延命の為の新自由主義大学・資本と対決し、闘いきる指導部建設を求められています！

既に連合の支配を打ち破り基地労働者がストライキに立ち上がり、県民大会への組織参加を決定しました！沖縄の闘いは新たな闘う指導部建設を開始したのです。

この闘いに恐怖した仲井間県知事に「オスプレイ配備強行なら全基地撤去に向かうしかない」という発言を強制し、北部12市町村に辺野古移設反対決議を挙げさせ、5万人参加に押しとどめようとする県民大会実行委員会(指導部)に5万人以上参加決定を強制したのです。

沖縄の階級闘争は原発と闘う全国の労働者・大衆の怒りの決起から巨万の激励を受けて、戦後労働運動の歴史的限界を乗り越え

ようとしています。

沖縄の闘いと怒りは福島を中心とする学生・労働者・女達の闘いと全く一体です！

原発全廃炉への闘争を「原発ゼロ基本法」に、辺野古新基地建設阻止・全基地撤去を「国外・県外移設」に変質させようとする動きは資本と連合(体制内勢力)の悪あがきに過ぎません！

原発・放射能の中で人類が生きられないのと同じく、核基地の中で人は生きられません。

福島と私達・沖縄を中心として全ての人々が共通していることは「この社会では生きられない！生きられる大地と社会をよこせ！」という怒りであり、欲求です！

この闘いと階級的団結を前にして野田政権、大阪・橋本市長による攻撃は何の意味もなさない。労働組合の屈服と絶望を煽ることによって成り立っているだけの脆弱な存在です。

私達は10.1外注化決戦を闘いきり、新たな指導部建設を通してこの状況に終止符を打つ。その闘いが世界の労働者階級との団結軸を作り出し、国際的な団結の中で放射能と戦争・基地の問題を解決していくことが出来ると確信します。

私達、労働者・学生は団結し、闘うことを通して資本主義を倒し、初めて人類に必要な課題に立ち向かうことが出来る！私達の今年前半の闘いと団結の拡大はそのことを示しています！

私達は皆さんと最後まで闘う決意です！

全国の団結で絶対に星野 文昭さんを取り戻そう！！

10.1外注化を阻止し、11月集会に向けて巨万の決起を呼び覚まそう！

◆北島邦彦（東京西部ユニオン・前杉並区議会議員）

全学連第73回定期大会へ、連帯のアピールを送ります。

大飯原発再稼働反対を契機に開始された、首相官邸前を埋め尽くす十数万人を超える反原発抗議行動は、呼びかけ団体の思惑も凌駕してさらなる怒りの渦巻きとなっています。その怒りは、原発再稼働に対する怒りを越えて、野田政権を崩壊に追い込むまでやむことのない、政治全体に対する怒りとなっています。繰り返される「再稼働反対！」のコールは、オスプレイ沖縄配備や消費増税への「絶対反対！」でもあります。初めてデモや集会に参加した

のは、非正規労働者を中心にした青年労働者だけではありません。中高年の労働者や高齢者もまた同じように、行動を開始しています。さらにその行動は、全国の県庁前抗議行動などとなって拡大しています。

こうした反原発行動は、日本の政治闘争に大きな転機をもたらしています。この行動は、あらゆる人々が政治に関与する道筋をつくりあげました。その「政治」は、何年かに1回投票するといった政治の現場から離れた行為ではなく、目の前に国会や首相官邸や官庁が具体的な形をもって存在する、権力をめぐる攻防である「政治」に手を触れる行動です。これまで黙ってきた、座り続けてきた、あきらめてきた、絶望してきた人々が、いま政治の主体として主張し行動し始めたのです。政治を変える、社会を変える主体の登場です。

その先頭に立つべきは、若き全学連のみなさんです。手を結ぶべき仲間たちはすぐそこにいます。ともに闘いましょう！

◆下田禮子

反戦被爆者の会

「すべての原発いますぐなくそう！ 全国会議」呼びかけ人

アジサイ革命を担う若人へ

全学連第73回定期全国大会おめでとうございます。

広島8・6大行動、ドイツゴアレーベンからの参加もありフクシマの方とも連帯し1300人の方が日本各地よりおこし下さり大成功の集会となりました。

心ある皆様のおかげとよろこんでいます。

広島、長崎、第五福竜丸、原爆、水爆、核実験、このような核の被害には世界の誰一人としてあわせてはいけないとの思いの反核運動でしたが、力不足3・11のフクシマの大事故となりました。一刻も早く元の環境に戻してほしい、着の身着のまま避難を強制された人々、悔やんでも悔やみきれない。総ての物への放射能汚染、除染で決してもとに戻りはしない。

農地・水・空気・風、考えれば考えるほど胸が痛みます。

野田政権は野田政権は早々に収束宣言を出しましたが、変わっていない。命より金の政治、子どもの命を守りたいフクシマの母親達。

今この人達に寄りそう診療所が求められています。

この地の医療は異口同音に「大丈夫たいしたことはない考えず

ぎです」親身に相談にのってくれる医者はいないとか！！

広島は新型爆弾(ピカドン)一言で片付けられ放射能のことも何ヶ月か経って「70年草木も生えない」と新聞報道され放射能のことを知るが、その物を食べ水を飲み生きのびてきた。

若い貴方達が今こそ歴史を勉強で核戦争を起こさない様、今何十万と決起している大衆と共に新しい平和への道を求めて頑張ってください。核も基地もオスプレイもいらぬ。

今その時が到来しています。全学連バンザイ。大会の成功をお祈りします。

◆葉山岳夫

弁護士・第二東京弁護士会所属

動労千葉弁護団長

三里塚芝山連合空港反対同盟顧問弁護団事務局長

憲法と人権の日弁連をめざす会

全学連第73回定期全国大会にあたり連帯のメッセージを送ります。

福島第1原発と東日本大震災の災害は、最末期帝国主義である新自由主義のもたらした人災です。福島の怒りを自らの怒りにできるかが問われています。3.11郡山、7.16代々木公園17万人の大結集、7.29の20万人を超えるデモ、国会前大集会、金曜日ごとの2万人を超える官邸前デモは、原発反対が福島の怒りと融合して全人民の闘いに進展したものと思います。

これらの闘いのなかで全学連の学生諸君は、労働者の部隊とともに先頭で闘ってきました。深く敬意を表します。

今年は、全学連が大きく飛躍する年だと思います。法政大学の6年半を超える闘い、京大同学会再建を足掛かりに全国的に学生自治会を建設する方針には、全く賛同します。日本帝国主義の推進するすべての原発の即時廃炉、再稼働阻止、動労千葉などに対する外注化阻止、三里塚農民と連帯した闘い、改憲阻止闘争をはじめ多くの闘いに全学連は期待されています。大学自治会の再建闘争の成功とそれを軸とした反原発闘争の高揚は、必ずや日本階級闘争の高揚をもたらすものと確信します。われわれ弁護士集団も皆さんと連帯して闘います。ともに頑張りましょう。

◆鈴木達夫

弁護士・第二東京弁護士会所属

元日放労長崎分会委員長
法大弾圧裁判弁護団長
「国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を
支援する全国運動」呼びかけ人
動労千葉顧問弁護団
憲法と人権の日弁連をめざす会

時代は変わった！フクシマの口惜しさと怒りを体現し、キャンパスからの数千数万の反原発決起は、必ず実現できると思います。
危機の時代にこそ、「人間であること」のすばらしさが顕れるのが世界史の真実。
韓国の労働者は「人は花より美しい」と訴えています。
この情勢のなかで、すべての法大裁判の完全勝利をともに勝ち取りましょう。

◆森川文人
弁護士・第二東京弁護士会所属
法大弾圧裁判弁護団・「4・24集会弾圧裁判」主任弁護士

今、凄惨な時代です。これまでと全く違う、まさに、まさに、革命情勢です。こんな時代に若い日々を過ごすというのは、大変なことであり、そして、素晴らしいことだと思います。今までの「常識」は、すべて打ち破って下さい。上の世代の言うことは、原則疑って下さい。価値観が全く変わっていくでしょう。

大事なのは、仲間だと思います。仲間とガンガン議論して、喧嘩して、行動して、暴れて、団結を形成できたら素晴らしい！

チェ・ゲバラ曰く、愛のない革命家は本当の革命家ではない。
愛とは何だ？ 連帯とは何だ？ 団結とは何だ？ 生きるとはどういうことだ？

そういう基本的で当たり前とされていることを考え、疑問をぶつけ、仲間と議論し、言いたいことを言い、失敗し、立ち直り、また、試み、みたいなことを繰り返しながら、どんどん進んでいきましょう！

◆婦人民主クラブ全国協議会 (代表・三浦

正子)

全学連第73回定期全国大会開催おめでとうございます。
今年の大会は、時代・情勢が大きく動いている中で開催されるものであり、とりわけ青年学生の未来をひらくものとして歴史に残る大会になるのではないかと期待をこめて注目しています。

資本主義・帝国主義の支配者たちはもはやこの先に何の展望も提示できません。いやいきづまっているからこそ新自由主義の攻撃にさらに突進せざるをえず、労働者民衆・学生をもっともっと奴隷のように犠牲にして搾り取るしかできません。福島原発事故をまったく解決できず、さらに外注化・10割非正規化、消費増税、TPP、沖縄基地強化・オスプレイ配備、戦争・改憲攻撃、医療・福祉教育の破壊等々です。こんな連中に未来を奪われてなるものか！とすでに数万・数十万の人々が立ち上がっていますが、何より全学連のみなさんのこれまでの不屈のたたかいが土台にあったと思います。法大119人不当逮捕や暴処法弾圧にも負けずたたかい勝利してきたこと、その上に立って福島で、沖縄で、京大で、広島で・・・、キャンパスにこだわってたたかっていることに心から敬意を表します。

いよいよこの転倒した社会をひっくり返していくために、数十万のたたかいを百万のデモに発展させていくときです。既成の運動のあらゆる反動・制動や分断をこえたみずみずしいうねりをつくりだしていきましょう。それを皆が求めていると思います。時代をつかみ、団結して新自由主義と真っ向から闘えば勝てる！その姿が運動として見えることが大事ではないでしょうか。全国の大学でたたく学生自治会を登場させてください。

私たち婦人民主クラブ全国協議会も先日第29回全国総会を開催し、新自由主義とたたかい、根底から社会を変えるための職場・地域の団結体として組織拡大に大きく打って出ることを誓いあいました。みなさんとともに私たち女性も全力でこの秋奮闘します。

大会の大成功を祈念してメッセージにかえます。

◆動労千葉・国際連帯委員会

第73回定期全国大会に結集された全学連の闘う仲間のみなさん、動労千葉・国際連帯委員会より連帯のメッセージをお送りします。

3月11日の郡山集会で切り開かれた反核・反原発の闘いのうねりは、首相官邸前の怒りの結集につながり、7・16には代々木

公園を 17 万の労働者・民衆が埋め尽くす闘いとして爆発しました。そして 7・29、ついに国会正門前に 20 万の人民が押し寄せ、60 年、70 年闘争を彷彿とさせる「解放区」が作り出されました。

開始された反核・反原発の闘いは、人間の人間としての解放を心から希求する「生きさせろ」の闘いであり、この社会の在り方の根底的変革まで止むことのない闘いです。

この街頭の闘いの息吹は、ストレートにキャンパスの闘いに連動しています。「核と原発を推進する御用学者をキャンパスから叩き出そう！」、「学生自治と団結を破壊し、学生を金儲けの対象に落とし込んでいる大学を、学生自らの手に奪い返そう！」のスローガンが全国に拡大し、学生自治会の再建が具体的に勝ち取られています。そしてこの闘いの渦中、暴処法弾圧粉碎の鮮やかな勝利の報が全国を駆け巡りました。

そして、国鉄闘争全国運動が呼びかけた 6・10 全国集会国鉄では、具体的に開始された幾多の拠点闘争をベースとして、「国鉄闘争の火をさらに大きく！」のスローガンが全参加者によって確認されました。2 年前の「4・9 和解」反動が作り出そうとした「あきらめと絶望」を最後的に払拭し、極めて攻勢的な方針を打ち立てることが出来ました。

そしてこの運動の環は、新自由主義の対抗軸となる階級的労働運動の構築にあり、それを担うのは全国各地・各職場の動労千葉を支援する会をはじめとする様々な形をとった国鉄闘争共闘組織であることが再確認されました。

動労千葉は、所属労組の壁を越えて現場に反乱をつくり出し、4 月 1 日、三度、検修・構内業務の全面外注化強行を阻止しました。そして今、JR 東会社のペテンと JR 東労組の裏切りを暴き出し、動労水戸、動労総連合、共に闘う国労の会と緊密な連携をもって、JR 職場を強制出向反対の声で席卷し、10・1 外注化を絶対に阻止すべく、猛然と決起しています。動労千葉を支援する会は、この動労千葉の決意に応え、7 月 22 日の総会において「持てる力を出し切って闘い抜くこと」を決議しました。

全学連に結集する若き仲間のみなさん！
動労千葉・国際連帯委員会は、国際主義の旗の下、みなさんと固くスクラムを組み、空前の反核・反原発の闘いのうねりの先頭に立ち、外注化阻止・非正規職制撤廃の闘いに勝利していく所存です。

*再稼働、絶対反対！全原発の廃炉に向かう闘いを切り開いていこう！

* 6・29 東京地裁判決の地平から解雇撤回へ攻め上ろう！新た

な国鉄 1047 名闘争をつくり出そう！

* 全国のキャンパスに闘う学生自治会を！あらゆる職場に動労千葉を支援する会を！

* 組織拡大で、10・1 検修・構内外注化を絶対に阻止しよう！

* 11・3 国際連帯集会～ 11・4 全国労働者総決起集会の大爆発を勝ち取ろう！